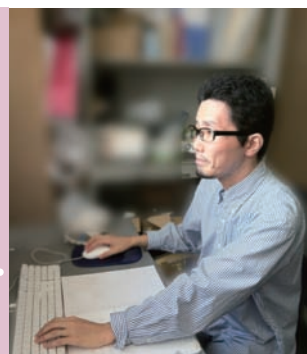


文化財デジタルコンテンツの開発

Development of digital cultural heritage content



真柄 亮太 Ryota Magara / 技術員

研究目的

日本のみならず文化財の保存修復には盛んに研究されており、デジタル化は非常に有効な手段の一つとして考えられまたその活用法には大きな需要があり、今後ますます重要な意味合いを持つ事になるだろうと考えられています。

研究内容

超高精細画像として取得されたデジタルイメージをもとに、アニメーションや映像、WEB、モバイル、3Dなどを用いてコンテンツ化するための開発を進めています。

個人のアーティストから美術館や博物館の作品までと利用範囲は広く、芸術作品や美術品の価値や情報、歴史をより正確に分かりやすく伝える事が重要な要素となっています。もちろん安全に最大限の配慮は怠ってはなりません。

またデジタルならではの特性である柔軟性を活かし、より利用者に向けて時間や場所を選ばない見せ方や展示の方法もできるのではと思います。

研究に使用する装置など

超高精細スキャナ・全方位カメラ

今後の展開

デジタルコンテンツは文化財をよりもっと身近に感じ、難解とされている部分を楽しみながら感じてもらえればと思います。

そしてより多くの人に美術や芸術といった枠にとらわれず社会へ「文化」として発信できていければ幸いです。